

急性膿胸に対して術中培養検査を行う意義に関する検討

本研究は済生会福岡総合病院の医学研究であり倫理審査委員会で審査され、病院長の許可を得て実施しています。

1. 研究の目的や意義について

急性膿胸の治療の主体は抗生剤であり、診断及び適切な抗生剤選択のために胸水の培養検査や感受性検査を行うことは強く推奨されています。また急性膿胸と診断された患者の約 6 割に手術が施行されています。しかしながら、術中に培養検査を行う意義は明らかではなく、ガイドラインにも明記されておりません。本研究では、膿胸診断時及び術中培養検査の結果を比較し、術中に培養検査を行う意義について検討します。

2. 研究の対象者について

福岡県済生会福岡総合病院外科において 2012 年 1 月以降に急性膿胸に対して手術を行った症例を対象としています。研究期間は 2021 年 3 月 31 日までとしています。

3. 研究の方法について

該当する患者を対象者として登録し、下記の情報を診療録より取得します。この研究は過去のデータを後ろ向きに調べて解析する“後ろ向き研究”であり、この研究のために新たに検査や画像診断、検体の採取などは行いません。

〔取得する情報〕

- ① 年齢
- ② 性別、身長、体重
- ③ 既往歴（糖尿病、心疾患、腎疾患など）、家族歴、生活歴（喫煙歴）
- ④ 病歴に関する情報、症状発症日、医療機関受診日（治療開始日）、抗生剤のレジメン
- ⑤ 採血検査所見：（診断時、手術時、術後の炎症反応の推移〔WBC、CRP〕）
- ⑥ CT 画像所見：膿胸壁の厚さ(cm)、膿胸腔の最大径(cm)及び数
- ⑦ 手術所見：手術時間、出血量、ドレーン留置本数、開胸手術への移行
- ⑧ 術後経過：ドレーン抜去日、退院日、術後合併症の有無、抗生剤治療期間
- ⑨ 予後：膿胸の再発、転帰

4. 個人情報の取扱いについて

対象者のカルテの情報をこの研究に使用する際には、対象者のお名前の代わりに研究用の番号を付けて取り扱います。また、この研究の成果を発表したり、それを元に特許等の申請をしたりする場合にも、対象者が特定できる情報を使用することはありません。研究結果は個人を特定できない形で関連の学会および論文にて発表する予定です。

5. 研究に関する情報や個人情報の開示について

この研究に参加してくださった方々の個人情報の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことができます。資料の閲覧を希望される方は、ご連絡ください。

また、ご本人からの開示の求めに応じて、保有する個人情報を開示します。情報の開示を希望される方は、ご連絡ください。

6. 相談窓口について

この研究に関してご質問や相談等ある場合は、下記担当者までご連絡ください。

事務局	担当者：福岡県済生会総合病院
(相談窓口)	医長 赤嶺 貴紀
	連絡先：〔TEL〕：092-771-8151 (代)